

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

| | |
|------|--------------------------|
| 大学名 | 熊本大学 |
| 整理番号 | B10 |
| 構想名 | 地域と世界をつなぐグローバル大学Kumamoto |

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

| | |
|---|--|
| (総括評価) B | 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。 |
| (コメント) <p>本構想は、「1. 国際通用性の高い学部教育のグローバル化」、「2. 外国人留学生に対する多様な受け入れ体制の提供と Late Specialization の促進」、「3. 世界最先端の研究を支える大学院教育のグローバル化と先鋭化」及び「4. 世界に開かれた地域づくりを牽引するグローバルキャンパスの提供」を4本の柱として、真のグローバル大学への変容を目指すものである。</p> <p>平成29年度中間評価以降これら4つについて、着実な進展がみられた。「1.」については平成30年度からの4+1ターム制の全学実施などの施策が講じられ、「2.」については、「留学生就職促進プログラム」など、留学生受け入れ体制の充実にも努力がなされている。「3.」ではダブルディグリー協定校の拡大などの進展がみられ、さらに「4.」では熊本県内の中高生を対象とする熊大グローバル Youth キャンパス事業参加者の飛躍的拡大などの成果が挙げられる。</p> <p>他方、平成29年度中間評価でも指摘したように、これらの施策の推進により達成が期待される各種目標の未達が散見される。まず、多様性に関する目標（いずれも最新時の目標値と実績値）だが、「教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合」（59.0%、43.0%。特に外国籍教員は、90人対50人）、「職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合」（15.0%、4.5%）、「全学生に占める外国人留学生の割合」（8.5%、6.2%）などが挙げられる。</p> <p>流動性に関しても同様で、「日本人学生に占める留学経験者の割合」（10.1%、6.6%。特に大学院では44.8%、17.2%）、「大学間協定に基づく交流数」（派遣日本人学生の割合（5.5%、3.7%）。特に大学院では、130人に対し80人）と未達である。</p> <p>語学力関係の指標では、「外国語のみで卒業できるコースの数等」[学部で10コース（令和元年度）、12コース（令和5年度）の設置を目標とするも、未だ準備段階にあり1コースも設置されていない]、「学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組」（一定の語学力の水準に達した者の割合が大学院で、目標値25.0%に対し実績値9.4%と大きく未達）などである。</p> <p>大学としてもこれら未達の目標については十分認識しており、様々な努力が行われているようではあるが、これらの目標は本構想申請時に明確に掲げられたものであり、更なる具体策を検討し、構想終了時の令和5年度末までに達成するよう一層努力することが求められる。</p> <p>また、本構想は単にプロジェクト期間の10年間で終わるものではなくこの大学の将来展望を示すものであり、財源確保を含め本構想の自走化についてより具体的な検討が進められることを期待する。</p> | |